



報道機関 各位

東北大学東北アジア研究センター
東北大学大学院環境科学研究科

新型コロナワクチン接種意向の心理的要因 ～在日外国人と日本人の比較～

【発表のポイント】

- 日本で暮らす海外生まれ・日本生まれの外国籍住民(在日外国人)、日本人の新型コロナワクチンの接種状況・意向を調査し、それぞれの心理的要因を比較した。
- 外国籍住民のワクチン接種意向は低くないが、接種率は低かった。
- ワクチン接種意向の心理的要因は、日本生まれの外国籍住民と日本人では比較的良好に似ているが、海外生まれの外国籍住民は「集団責任」意識と接種意向の関連が弱いなど、やや異なる傾向がみられた。
- 本研究の結果は、外国籍住民に対してカスタマイズされたワクチン接種促進策の重要性を示唆している。

【研究概要】

新型コロナワクチンの接種は日本人のみならず外国人住民にとっても重要ですが、その接種意向に違いがみられるのか、またそれを規定する心理的要因が異なるのかは不明のままでした。

東北大学東北アジア研究センター 藤媛媛助教、東北大学大学院環境科学研究科 中谷友樹教授・埴淵知哉准教授、東京医科大学 町田征己講師は、在日外国人1,986名および日本人1,704名を対象とした調査を実施し、新型コロナワクチンの接種状況・意向、その心理的要因を比較しました。調査・分析の結果、外国籍住民、特に日本生まれの人の接種意向は高いものの接種率は低いことがわかりました。また、海外生まれの外国籍住民における新型コロナワクチンの接種意向の心理的要因は、日本人とは大きく異なるのに対し、日本生まれの外国籍住民の心理的要因は日本人と類似していました。本研究結果は日本のマイノリティ集団における健康の規定要因を解明する上で、重要な実証的価値を持つものです。

本研究成果は、2023年1月24日(UTC)にVaccine誌(オンライン速報版)に掲載されました。

【詳細な説明】

＜研究背景と方法＞

欧米では新型コロナウイルス感染症の流行において、外国人住民または民族的少数派が大きな影響（例えばより高い感染率や死亡率）を及ぼしているにもかかわらず、現地住民よりもワクチン接種率が低いとの報告が相次いでいます。しかし日本では外国人住民における新型コロナワクチン接種の状況や意向およびそれらを規定する心理的要因は不明でした。そこで本研究では、広く使われている最新の7Cモデルを用いて独自の調査を実施することで、海外生まれの外国籍住民、日本生まれの外国籍住民、日本人の間における新型コロナワクチンの接種状況や意向、およびそれぞれの心理的規定要因との関連の違いについて、日本で初めて検討しました。

調査は2021年10月に日本に居住する20歳以上の外国籍住民（有効回答：1,986名、うち日本生まれ501名）と日本国籍住民（有効回答：1,704名）に対してオンラインで実施しました。分析ではワクチンを接種した、または接種する予定のある場合を接種意向ありとしました。また心理的要因を測るため、ワクチン接種意向を構成する7つの要素（信頼、無頓着、障壁、打算、集団責任、社会規範の支持、陰謀論的思考）を挙げる7Cモデルによる予防接種レディネス尺度^{*1}のshort版を利用しました（Geiger et al., 2022; Machida et al., 2022）。なお7つの要素と新型コロナワクチンの接種意向との関連性を調べるため、ロバスト標準誤差を用いたポアソン回帰分析^{*2}を用いました。

＜研究成果の内容＞

調査の結果、外国籍住民における新型コロナワクチンの接種意向は日本人とほぼ同じ（日本生まれの外国籍住民）、あるいはそれ以上に高かったです（海外生まれの外国籍住民）。一方外国籍住民における新型コロナワクチンを2回接種した者の割合は比較的low、特に日本生まれの外国籍住民は最も低い接種率を示しました（図1）。在日外国人二世世代の教育達成状況や社会統合の程度が比較的lowことはしばしば指摘されており、こうした社会経済的に不利な状況がワクチン接種の遅れをもたらしていると考えられます。

ワクチン接種意向に関する回帰分析の結果、7Cモデルにおける「打算（ワクチン接種の個人的なコストとベネフィットの重み付けの度合い）」以外のすべての構成要素は、新型コロナワクチンの接種意向に関連していました。また、ワクチン接種をためらう代表的な3つの影響要因である「信頼（予防接種の安全性と有効性、保健所、ワクチンを推奨・開発する保健当局への信頼）」、「無頓着（感染症のリスクが低いと認識しているため、予防接種を受けようとしない無頓着な態度）」、「障壁（ワクチン接種を困難または費用がかかるものとする日常生活における構造的または心理的なハードル）」の効果がどのグループにおいても強かったです。したがってこの3つの要素に焦点を当てるワクチン接種の促進策

は、日本人に対しても在日外国人に対しても有効であると考えられます。

ただしグループによって各要素による接種意向の発生率比が異なります。日本生まれの外国籍住民における接種意向の心理的要因は、海外生まれの外国籍住民よりも、日本人の場合に類似していました（図 2）。日本生まれの外国籍住民と日本人住民の間で効果が異なる要素は「陰謀的思考（ワクチン接種に関する陰謀論的思考とフェイクニュースへの確信）」のみでした。「陰謀的思考」は、外国籍住民よりも、日本人の接種意向とより強く関連することがわかりました。また、有意な関連性が確認された要素の中で、海外生まれの外国籍住民と日本生まれの外国籍住民の間における効果に有意差がない要素は、「社会規範の支持（ワクチンを接種していない人を社会的に監視し、罰則を加えることへの支持）」のみでした。外国籍住民の母国における社会規範などは、ソーシャルメディアや家族・友人を通じて外国籍住民に伝わり、そのワクチン接種意向に影響を与えた可能性があります。

さらに海外生まれの外国籍住民は高い「集団責任（他人を守り、感染症をなくそうとする意志）」意識を示していました。しかし「集団責任」は、海外生まれの外国籍住民よりも、社会的つながりが比較的多いと思われる日本生まれの外国籍住民と日本人の接種意向により強い影響を与えることがわかりました。この結果は外国籍住民の日本社会での社会ネットワークを拡大させることで、集団責任と接種意向との関連性を高め、ワクチン接種意向を高められる可能性を示唆しています。

本研究の知見は在日外国人住民へのワクチン接種促進をめぐって、心理的およびそれを形作る文化的な違いに配慮した政策の重要性を示唆しています。また本研究、日本における外国籍住民と日本人の新型コロナワクチンの接種状況や意向およびその影響要因の違いを調べた初めての研究であり、日本社会やアジアの文脈における外国人住民の健康の理解に大きく貢献するものです。

【用語説明】

注1. 予防接種レディネス尺度

予防接種レディネス(予防接種を受ける意向がありその準備ができている程度)を測定する尺度です。詳細については、<http://www.tmu-ph.ac/news/data/vaccination-readiness-02.pdf> をご参照ください。

注2. ロバスト標準誤差を用いたポアソン回帰分析

あるイベントが生じた場合に1、そうでない場合を0とするような2値データを分析する場合に、ポアソン回帰分析はイベントが生起する相対的なリスクを推定するうえで便利な統計技法です。ただし、2値データに用いるとリスク推定値の分散が過大になることが知られており、これはロバスト標準誤差を用いる修正ポアソン回帰分析で補正できることが知られています。

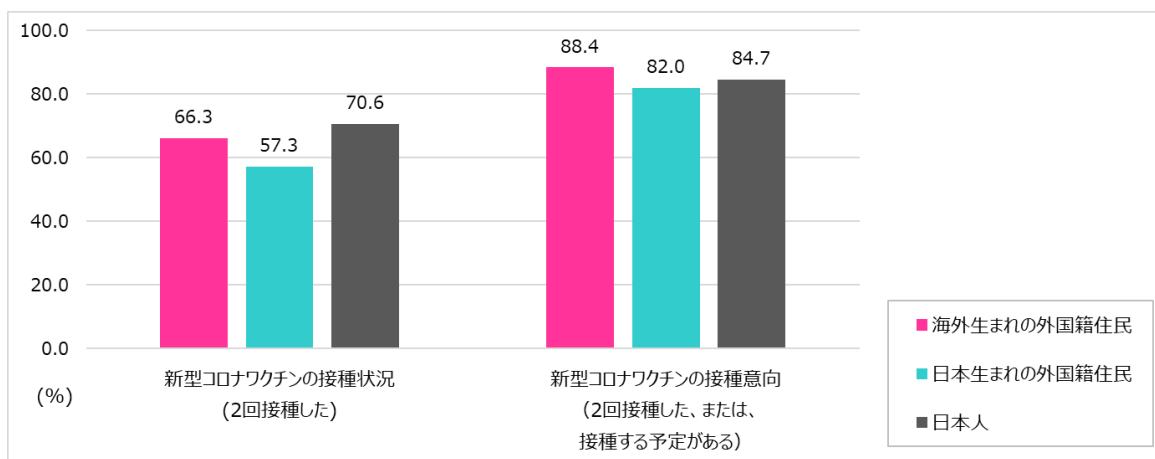


図1 在日外国人と日本人における新型コロナワクチンの接種状況と意向

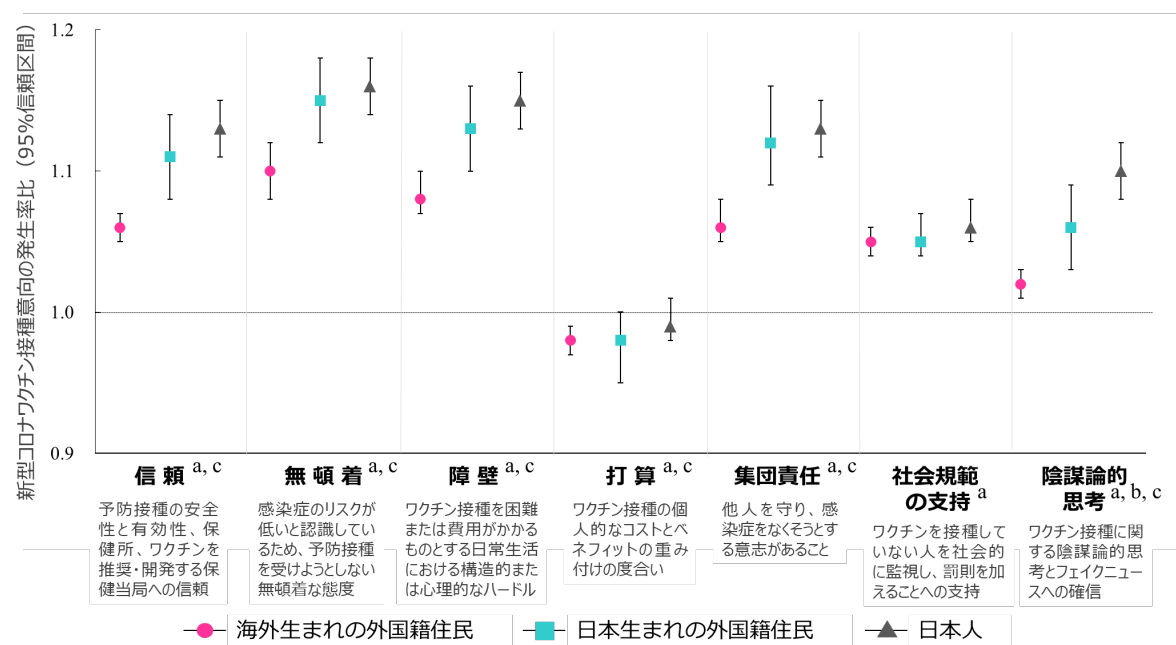


図2 新型コロナワクチンの接種意向における心理的要因の比較

注: Seemingly unrelated regression test を用いて各グループ間のワクチン接種意向と構成要素との関連性の差を検討しました。有意な群間差は上付き文字で示しました:(a) 海外生まれの外国籍住民 vs.日本人、(b) 日本生まれの外国籍住民 vs.日本人、(c) 海外生まれの外国籍住民 vs.日本生まれの外国籍住民。

【支援】 本研究は、東北大学新型コロナウイルス対応特別研究プロジェクト ポストコロナ社会構築研究推進支援、および、2021 年度東北大学附置研究所若手研究者アンサンブルプロジェクトの支援を受けて行われました。

【論文題目】

Title: Psychological determinants of COVID-19 vaccine acceptance: A comparison between immigrants and the host population in Japan

Authors: Yuanyuan Teng, Tomoya Hanibuchi, Masaki Machida, Tomoki Nakaya

タイトル: 新型コロナワクチン接種意識の心理的要因: 在日外国人と日本人の比較

著者名: 滕媛媛*, 埴淵知哉、町田征己、中谷友樹 *責任著者

掲載誌: Vaccine

DOI: 10.1016/j.vaccine.2023.01.037

【問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学東北アジア研究センター

助教 滕 媛媛(とう えんえん)

電話: 022-795-3139

E-mail: yuanyuan.teng.d7@tohoku.ac.jp

東北大学大学院環境科学研究科

教授 中谷友樹(なかや ともき)

電話: 022-752-2237

Email: tomoki.nakaya.c8@tohoku.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学東北アジア研究センター 事務室

電話: 022-752-6009

E-mail: asiajimu@grp.tohoku.ac.jp